

I 令和3年度事業報告書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

当財団は、埼玉会館及び彩の国さいたま芸術劇場の指定管理者として、令和2年度から5年間の指定を受け、質の高い舞台芸術作品を創造、発信するとともに、県民の芸術文化活動の支援に関する取組を実施した。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い5事業11公演の中止や施設利用のキャンセルなどの影響を受けたが、ホールの抗ウイルス・抗菌加工や紫外線空気除菌システム等の導入のほか、業種別ガイドラインを踏まえた感染症対策を徹底し、来場者及び利用者に理解を求めながら、安全・安心な事業運営に努めた。

その結果、彩の国シェイクスピア・シリーズのほか、海外舞踊公演の招聘や世界的に評価される著名アーティストが演奏する音楽公演、埼玉会館での狂言など57事業151公演を開催した。なお、長年、故蜷川幸雄芸術監督が築き上げた「彩の国さいたま芸術劇場」のブランド力の構築に貢献をしてきた「さいたまゴールド・シアター」、「さいたまネクスト・シアター」は、それぞれの最終公演を上演し、解散した。

また、令和3年4月1日から次期芸術監督に就任した近藤良平氏は、令和4年4月の芸術監督就任に先立ち、アートジャンルの枠を超え、あらゆる人が自由闊達に交わりアートを創造・発見する劇場を目指すためのプログラム策定に当たったほか、彩の国さいたま芸術劇場オープンシアター『ダンスのある星に生まれて2021』を2日間にわたり開催した。

このほか、近年、社会情勢の変化や芸術文化関連法案の改正等により、社会包摂、地域貢献、芸術教育など芸術文化や公共劇場に求められる役割が多様化していることを踏まえ、当財団の目指すべき方向性として、新たに組織運営理念【ミッション・ビジョン】を策定するなど、経営改革にも取り組んだ。

【ミッション】

「Art for Life - すべての人生に芸術を - 」

【ビジョン】

「アートでつなぐ - 人・地域・世界 - 」

- (1) 世界に通用する舞台芸術を創造・提供する
- (2) 県民に対し満足度の高い芸術文化活動の実践の場を提供する
- (3) 社会や地域の課題に対し芸術文化活動を通じてその解決に貢献する

1 事業の概要

(1) 舞台芸術作品の提供等に関する事業

新型コロナウイルス感染症の感染症対策を徹底し、自主企画公演等を実施した。

ア 自主企画公演等及び国内外との交流 (57 事業)

彩の国さいたま芸術劇場では「創造する劇場」の理念のもと、芸術性の高い舞台芸術作品を創造し、国内外に発信、提供した。

また、埼玉会館では、音楽を中心に地域の方に親しんでいただける公演を実施した。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響等により、5 事業（舞踊 2 事業、音楽 3 事業）の公演を中止し、1 事業の内容を変更の上、実施した。

(ア) 彩の国さいたま芸術劇場 (50 事業)

a 演劇部門

若手演出家の起用や子どもたちの鑑賞機会の確保に努めるとともに、蜷川レガシーを継承しつつ質の高い作品の発信に取り組んだ。

「彩の国シェイクスピア・シリーズ」は、同シリーズ芸術監督 吉田鋼太郎氏のもと、シリーズ最終作品として5月に第37弾「終わりよければすべてよし」(演出・出演：吉田鋼太郎、出演：藤原竜也、石原さとみ ほか) を上演した。23年間にわたる「彩の国シェイクスピア・シリーズ」のファンやリピーターのみならず、普段演劇公演を鑑賞しない若年層が本公演をきっかけに演劇やシェイクスピア作品に関心を持ったという複数の意見が聞かれるなど、質の高い作品鑑賞機会の提供や観客層の拡大を図ることができた。また、関連企画として彩の国シェイクスピア講座 Vol. 5「終わりよければすべてよし」徹底勉強会を実施し、受講者にはシェイクスピア作品の新しい魅力を発見する機会を提供した。

7月には、次代を担う演劇人として注目を集める藤田貴大氏による児童演劇公演「めにみえない みみにしたい」と「かがみ まど とびら」を再演し、子どもから大人まで幅広い層に向けた鑑賞機会を提供した。なお、本作品は全国9会場でも上演した。

若手演劇集団さいたまネクスト・シアターは、8月に最終公演として劇団とも縁の深い岩松了氏を演出に迎え、近作で評論家から高い評価を得た細川洋平氏による書き下ろし新作公演「雨花のけもの」に挑んだ。現代日本を想起させる格差社会を背景にした物語をネクスト・シアターのメンバーが熱演し、12年間の活動の集大成となった。

高齢者演劇集団さいたまゴールド・シアターは、12月に今注目を集める演出家 杉原邦生氏を演出に迎え、最終公演として「水の駅」を上演した。蜷川幸雄前芸術監督によって創設され、数度の海外公演も実現した世界的にも稀有な高齢者演劇集団の最終公演とあって、テレビや新聞を中心にマスメディ

アでも数多く取り上げられた。太田省吾氏による一切の台詞を排した沈黙劇という一般的には馴染みの薄い形式ではあったが、高齢者のリアルな肉体や過去の人生経験に裏付けられた演技は、15年間の活動の集大成と呼ぶにふさわしい公演となり、各方面から高い評価を受けた。

英国の演出家クリストファー・グリーン氏による「THE HOME」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、宿泊体験型のイベントから実施形態を変更し、日英合作のオンライン作品として制作・公開した。日本版は作・演出を老いと演劇を実践する菅原直樹氏が担い、さいたまゴールド・シアター、さいたまネクスト・シアター等が出演した。老いと介護をめぐる様々なドラマを映像作品で描き、ウェブ・アプリ上での公開期間中(9/26~12/31)、日本・英国を中心に世界35か国から1.9万PVのアクセスがあり、ウィズコロナ時代ならではの表現形態を提案することができた。

2月には、「彩の国シェイクスピア講座番外編」として、オンラインアンケートで最も多くの支持を集めた「ヴェニスの商人」の勉強会及び上映会を実施し、好評を博した。

その他、8月には、蜷川幸雄七回忌追悼公演として、名作「ムサシ」を上演した。当劇場で上演してきた人気作であり、再演を待ち望むファンも多く、埼玉から世界に向けて発信する舞台芸術作品の鑑賞機会を改めて提供することができた。

事業名	実施時期	会場
彩の国シェイクスピア・シリーズ第37弾 「終わりよければすべてよし」	5月	大ホール
「めにみえない みみにしたい」 「かがみ まど とびら」	7月	大ホール 舞台上
さいたまネクスト・シアター「雨花のけもの」	8月	小ホール
「THE HOME」	9~12月	オンライン
さいたまゴールド・シアター「水の駅」	12月	大ホール
彩の国シェイクスピア講座番外編 「ヴェニスの商人」勉強会&上映会	2月	小ホール 映像ホール
【共催】「ムサシ」	8月	大ホール

b 舞踊部門

国内外でめざましい活躍をするアーティストの新作制作や、世界的な振付家・演出家による最新作の紹介に取り組むと同時に、若手ダンサーの育成も手がけた。

主催公演として、6月には、2006年から毎年上演を続けている近藤良平氏

率いるダンスカンパニー「コンドルズ」による新作「Free as a Bird」を上演した。コロナ禍により2年振りとなった埼玉での新作公演は、真っ白なセットを配置し、大ホールの舞台機構も効果的に駆使しながら、人形劇などを取り入れるなど、親しみやすい作品で、地域住民を中心に幅広い観客層の更なる拡大を図った。

7月には、「日本昔ばなしのダンス」を埼玉県草加市で上演し、親子の対話の機会やダンスに対する興味を深めるきっかけづくりを提供した。

9月には、令和2年度から延期となったメリル・タンカード氏による伝説のダンサー オリガ・スペシフツェワの一生を描いた作品「TWO FEET」を日本で初上演する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により渡航ができず、中止となった。

1月に予定していた、世界のダンスシーンをリードするイスラエルの振付家オハッド・ナハリン氏とダンスカンパニー バットシェバ舞踊団による最新作についても、2009年初演の「HORA」に演目を変更し開催の可能性を探ったが、同じく中止となった。

2月には、令和4年度、新作を携えて来日予定のギリシャの振付家ディミトリス・パパイオアヌー氏による映像作品「NOWHERE」ディレクターズ・カット版の上映会を実施した。世界的に活躍するアーティスト・振付家の作品に触れる貴重な機会を提供するとともに次回作への関心を深めることができた。

また、育成事業として、若手ダンサー・振付家の育成を目的とした「さいたまダンス・ラボラトリ Vol. 4、Vol. 5」を昨年度に引き続き実施した。8月（Vol. 4）には、ネザーランド・ダンス・シアターの元ダンサーであり振付家としても活躍する湯浅永麻氏・小尻健太氏を講師に迎え、プロを目指す若手ダンサーや学生を対象としたワークショップを集中的に実施した。最終2日間には受講生による成果発表等を行い、若手ダンサーの育成及び創造活動に取り組んだ。3月（Vol. 5）には、ヨーロッパを拠点に活躍するダンサー・振付家のダニエル・リネハン氏によるワークショップを実施したほか、リネハン自身が振付、踊るソロ作品「BODY OF WORK」も併せて上演した。本作品の鑑賞もラボのカリキュラムに組み入れることによって、海外の旬のアーティストの作品を目の当たりにしながら直接創作について集中的に学ぶ機会を提供することができた。

そのほか、平成26年度から実施しているプロの振付家、ダンサーによる、県内中学校の生徒を対象にしたアウトリーチ事業「MEET THE DANCE～アーティストが学校にやってくる！」も実施し、ダンスを通じてのコミュニケーション能力の育成を図った。

7月には、共催事業として、新潟市民芸術会館りゅーとぴあのレジデンス・カンパニーNoismによる公演「Noism0+Noism1+Noism2『春の祭典』」を上

演じた。ストラヴィンスキー没後 50 周年の記念年に新作「春の祭典」や、コロナ禍に創作した映像作品「BOLERO 2020」などを上演した。日本のダンス界を牽引する Noism の作品を上演することで県民に多様な舞台芸術に触れる機会を提供した。

さらに、パーキンソン病患者のために開発されたダンス・プログラムのワークショップをスターダンサーズ・バレエ団との協働で定期開催した。ウィズコロナ時代に適応した取組の一環として、オンラインによる配信で実施し、パーキンソン病特有の症状を考慮したプログラムにより、通常の芸術体験が困難な人々にもダンスを通じた身体表現を楽しむ機会を提供した。

事業名	実施時期	会場
コンドルズ埼玉公演 2021 新作「Free as a Bird」	6 月	大ホール
日本昔ばなしのダンス地方ツアー	7 月	草加市
さいたまダンス・ラボラトリ Vol.4 (湯浅永麻・小尻健太による WS)	8 月	大ホール舞台上
ナタリア・オシポワ／メリル・タンカード 「TWO FEET」【中止】	9 月	大ホール
バットシェバ舞踊団「HORA」【中止】	1 月	大ホール
ディミトリス・パパイオアヌー 「NOWHERE」ディレクターズ・カット版 上映会	2 月	映像ホール
さいたまダンス・ラボラトリ Vol.5 (ダニエル・リネハンによる WS 及び「BODY OF WORK」公演)	3 月	大ホール舞台上 大稽古場
MEET THE DANCE ～アーティストが学校にやってくる！ (4 校実施)	10～12 月	県内中学校
パーキンソン病患者のためのダンス・プログラム (10 回実施)	4 月～2 月	オンライン
【共催】Noism0+Noism1+Noism2 「春の祭典」	7 月	大ホール

c 音楽部門

音楽ホールの音響特性を活かし、世界のトップ・アーティストから気鋭の若手まで幅広く起用して、多様なニーズに応える公演を実施するとともに、気軽に足を運べる無料コンサートや参加・育成を目的とした事業も併せて展開することで、鑑賞者の更なる拡大につなげた。

世界的レベルの演奏を鑑賞できる機会として、12 月に毎年恒例のバッハ・コレギウム・ジャパン公演を実施し、併せて関連レクチャーも開催した。当初、海外からソリスト 2 名を迎える予定としていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により渡航ができず、日本人の代役を立てて公演を実施し

た。世界に誇る古楽団体による水準の高い演奏で充実した音楽体験を提供することができた。

3月には、ベテランピアニスト アンヌ・ケフェレック氏によるリサイタル公演を実施した。世界的に評価される著名アーティストが演奏する音楽の殿堂として、当劇場の存在をアピールすることができた。

なお、ダニエル・オッテンザマー氏とソフィー・デルヴォー氏による管楽器アンサンブル公演（6月）については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止した。チェリスト 堤剛氏とピアニスト 小菅優氏によるデュオ・リサイタル（12月）については、堤剛氏の負傷により公演を中止した。

また、15年目を迎える、選りすぐりの若手ピアニストによる「ピアノ・エトワール・シリーズ」では、過去の出演者が再登場するアンコール・シリーズとして、4月に河村尚子氏を迎えたほか、2月には、世界的な活躍が期待できる日本の若手ピアニストとして注目を集め、第18回ショパン国際ピアノ・コンクールで第4位入賞を果たした小林愛実氏が登場した。若手アーティストの公演を継続的に実施することで、次の世代の発掘支援に貢献した。

なお、2018年浜松国際ピアノ・コンクールを制したトルコの新星ピアニスト ジャン・チャクムル氏の公演（1月）は、新型コロナウイルス感染症拡大に対する水際対策強化に伴い、渡航制限緩和の見通しが立たないことから、中止となった。

9月には、劇場オープンシアター「ダンスのある星に生まれて2021」内の音楽ホールイベントとして、「Ensemble FOVE『ZINGARO!!!』」公演を実施した。現代音楽の作曲家として、またテレビドラマや映画の劇伴などでも注目を集める坂東祐大氏が主宰、気鋭の若手奏者が集結した「Ensemble FOVE」の初のホール公演となった。質の高い演奏とエンターテインメント性が両立した公演内容は、アンコール演奏を撮影可としたことで、終演後もSNSで拡散されて大きな話題となり、当劇場の新たな試みをアピールすることができた。

また、誰でも気軽に音楽に触れられる機会を提供するため、ポジティブ・オルガンを活用したオルガン事業（無料のミニコンサート「光の庭プロムナード・コンサート」、「みんなのオルガン講座」、「大塚直哉レクチャー・コンサート（全2回）」）を継続して実施した。

「光の庭プロムナード・コンサート」については、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、事前申込制で定員を設け、計8回実施した。毎回、申し込みは定員に達し、コロナ禍においても生演奏を気軽に楽しむ機会を提供することができた。

「みんなのオルガン講座」では、ポジティブ・オルガンという触れる機会の少ない楽器を使用して、オルガンやオルガン音楽への興味を深め、ピアノ等の学習者に対して、新たな視点を提示し、より深い学びにつなげることができた。

「大塚直哉レクチャー・コンサート」では、演奏とレクチャーを通してオルガンや古楽について学ぶ機会を提供するとともに、公演ごとに他分野で活躍する方をゲストに招き、バッハの音楽に多角的に光を当てることで、より深い理解につなげることができた。

また、昨年度から始まった「イレブン・クラシックス」では、6月にミュンヘン国際音楽コンクール第1位入賞で注目を集める葵トリオ、2月にはメトロポリタン歌劇場で鮮烈なデビューを飾って以来、世界中のオペラに出演するソプラノ歌手 森谷真理氏と色彩豊かな演奏を持ち味とするピアニスト山田武彦氏を迎えた。作品の魅力を存分に引き出す表情豊かな演奏や歌で聴衆を魅了するとともにナビゲーターの林田直樹氏が美術や音楽との関連性や鑑賞の手助けになる話などを披露することで、より作品の奥深さに触れることができ、鑑賞の質を高めることにつながった。

そのほか、若い世代に芸術の体験機会を提供する小・中学校へのアウトリーチ事業「MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる！」も引き続き実施した。劇場に足を運ぶことが難しい環境にある学校に直接音楽を届けることにより、裾野の拡大につながった。

また、6年目を迎える共催事業として、埼玉県在住で日本を代表するピアノデュオ ドゥオールによるデュオセミナーを8月に開催し、受講生に深い学びの機会を提供することができた。

事業名	実施時期	会場
ピアノ・エトワール・シリーズ (Vol.42・43、アンコール!Vol. 9) 【Vol. 42 は中止】	4月・2月	音楽ホール
イレブン・クラシックス (Vol.3・4)	6月・2月	音楽ホール
大塚直哉レクチャー・コンサート	7月・2月	音楽ホール
ダニエル・オッテンザマー&ソフィー・デルヴォー デュオ・リサイタル(県内の高校生・大学生を対象とした教育プログラム) 【中止】	6月	音楽ホール
光の庭プロムナード・コンサート 夏休みスペシャル	7月	情報プラザ
Ensemble FOVE 「ZINGARO!!!」	9月	音楽ホール
堤剛&小菅優 デュオ・リサイタル 【中止】	12月	音楽ホール
バッハ・コレギウム・ジャパン ヘンデル メサイア (関連レクチャーも開催)	12月	音楽ホール
アンヌ・ケフェレック ピアノ・リサイタル	3月	音楽ホール
光の庭プロムナード・コンサート (8回実施)	5月～3月	情報プラザ
みんなのオルガン講座	7月～2月	大練習室他

事業名	実施時期	会場
MEET THE MUSIC ～アーティストが学校にやってくる！ 【6校中1校中止】	6月～2月	県内小・中学校
【共催】ピアノデュオ ドゥオールデュオセミナー創造の4日間 in 彩の国さいたま芸術劇場	8月	音楽ホール他

d その他

「彩の国さいたま寄席 四季彩亭」を年4回開催し、若手落語家に出演の機会を提供すると同時に、鑑賞者に対しても名人から若手まで幅広い落語家の高座を楽しむ機会を創出することができた。

7月には、高校生から25歳以下の若年層を対象とした舞台技術の研修会を実施した。また、埼玉大学の授業への講師派遣や大学生インターンシップを受け入れるなど、地域との連携を深めるとともに、地域における芸術活動を担う人材育成に貢献した。

9月には、次期芸術監督近藤良平氏プロデュースによる劇場オープンシアター「ダンスのある星に生まれて2021」を開催した。親子や幅広い世代を対象にダンス・音楽などジャンルを超えて気軽に参加、鑑賞して楽しめるプログラムを各ホールのほか、情報プラザなど劇場の開かれた空間も活用し上演した。劇場の多様な楽しみ方を提案した結果、家族連れの来場者が多く見受けられ、開かれた劇場の魅力を十分に発信することができた。

3月には、「バリアフリー・セミナー」を「さいたま舞台技術フォーラム」との共同企画として、オンライン併用で開催した。障がい当事者による当劇場の現地検証や他の劇場での鑑賞サポートにおける舞台技術の役割について報告を行い、劇場におけるバリアフリーの課題や他の劇場の事例などを共有することができた。

事業名	実施時期	会場
彩の国さいたま寄席 四季彩亭	4～1月	小ホール
舞台技術講座	7～3月	大ホール他
埼玉大学アートマネジメント講座	4～7月	埼玉大学他
劇場オープンシアター「ダンスのある星に生まれて2021」	9月	大ホール他
バリアフリー・セミナー	3月	映像ホール、オンライン
大学生インターンシップ	8～10月	劇場

(イ) 埼玉会館（7事業）

埼玉会館では平日昼間に誰でも気軽に一流の演奏を楽しむランチタイム・

コンサートを5回開催した。親しみやすい音楽の鑑賞機会を広く提供することにより、新たな鑑賞者層を開拓するとともに、地元飲食店とタイアップし地域の活性化にも貢献した。

10月には、大ホールの特性を活かしたオーケストラ公演として毎年好評を博しているNHK交響楽団公演を注目の若手指揮者 川瀬賢太郎氏と俊英チェリスト 佐藤晴真氏を迎えて実施した。日本のトップオーケストラによるベートーヴェンとチャイコフスキーの華やかなプログラムを披露し、質の高い演奏を鑑賞する貴重な機会を提供することができた。

2月には、隔年で開催している万作の会による狂言公演を実施した。出演者の一部に体調不良が確認されたため、当初の配役から変更し、代役で上演することとなった。狂言講座を同時開催したことで、伝統芸能愛好者はもとより、初心者も含めた観客層を拡大することができた。

事業名	実施時期	会場
埼玉会館ランチタイム・コンサート(第48回~第52回)	5~3月	大ホール
NHK交響楽団	10月	大ホール
狂言「万作・萬斎の世界」	2月	大ホール

イ 企画展示・広報等

(ア) 企画展示事業

彩の国さいたま芸術劇場内の情報プラザ、ガレリアを活用し、財団主催事業の紹介や舞台芸術への関心を高めるための企画展示を開催した。

a 「安野光雅の表紙絵で巡る 松岡和子訳シェイクスピア全集展」

「彩の国シェイクスピア・シリーズ」の翻訳を担当した松岡和子氏全訳のちくま文庫「シェイクスピア全集」の表紙絵はすべて画家 安野光雅氏が手掛け25年をかけ完結しました。その足跡を『彩の国シェイクスピア・シリーズ』のチラシ、舞台写真と「シェイクスピア全集」の表紙絵を交え、その功績を紹介した。

b ダンスのある星に生まれて「あれもこれもダンス展」

本展では オープンシアター「ダンスのある星に生まれて」関連企画として近藤良平次期芸術監督の監修のもと、ダンス、音楽、演劇というジャンルの垣根を軽やかに飛び越えたダンスの舞台や映画のポスターのほか、見る角度を変えると「これもダンス!？」という特徴のあるポスターを展示した。

c 「さいたまゴールド・シアターの軌跡 2006～2021」

本展では、長年さいたまゴールド・シアターを取材してきた山口宏子氏の寄稿、舞台写真・チラシを展示し、日々泣き笑いしながら歩んださいたまゴールド・シアターの軌跡を振り返った。

(イ) 財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」の発行

財団主催事業などを紹介した情報誌「埼玉アーツシアター通信」を発行した。

公演の見どころを、より分かりやすく伝えるとともに、財団の各種案内等の様々な情報を掲載し、読みやすく、かつ充実した内容となるよう、編集を行った。

a 発行回数、部数 年6回 各12,000部発行

b 配布先 財団メンバーズ、サポーター会員、マスコミ、プレイガイド、さいたま市内公共施設・コミュニティセンターなど

(ウ) メンバーズ事業

顧客の定着化とチケットの販売促進のため、登録会員に財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」を送付するほか、主催事業のチケットの優先予約や割引販売などを行った。

メンバーズ会員数 4,536人（令和4年3月末現在）

(エ) サポーター会員制度の運営

財団の活動に対し支援いただく法人等の会員組織「サポーター会員」の運営を行うとともに、会員の拡大を図った。

サポーター会員数 118社（者）（令和4年3月末現在）

ウ 資料収集

演劇、舞踊、音楽、映画等の分野に関する書籍、CD、DVD等を収集するとともに、当財団自主企画事業の記録映像を含めた公演資料の適切なアーカイブ化を図り、彩の国さいたま芸術劇場の舞台芸術資料室において公開した。

	資料総数	左記にかかる分野ごとの内訳				
		演劇	舞踊	音楽	映画	その他
書籍	11,460点	2,287点	628点	2,808点	713点	5,024点
CD	11,083点	9点	77点	10,588点	0点	409点
映像	3,058点	433点	498点	1,730点	173点	224点

(2) 芸術文化活動の場の提供等に関する事業

利用者が自ら行う芸術文化活動の拠点施設として、多様なニーズに対応するとともに、施設の持つ機能を効果的に活用しながら施設の貸与を行った。

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、ホールの抗ウイルス・抗菌加工や紫外線空気除菌システムの導入のほか、マスク着用や消毒、換気など、業種別ガイドラインに沿った対策を徹底し、来場者及び利用者への丁寧な説明を行い、理解を求めながら感染拡大の防止に努めた。

ア 彩の国さいたま芸術劇場

彩の国さいたま芸術劇場の施設の適正な管理を行うとともに、ホール、稽古場、練習室等が十分に活用されるよう利用者サービスの充実に努めた。

ホール利用においては、貸館セクションと舞台技術セクションの連携を図ることで技術的な提案を実施するなど、利用者の問い合わせや要望に対し適切かつ迅速に対応した。また、「劇場等演出空間の運用及び安全に関するガイドライン」を配布し、利用者の安全に対する意識向上にも取り組んだ。

総来場者数 198,162 人

施設の利用状況

施設等の名称	利用可能日数	利用日数	利用率
ホール	1,021日	719日	70.4%
稽古場・練習室	3,637日	3,101日	85.3%
計	4,658日	3,820日	82.0%

イ 埼玉会館

埼玉会館の適正な管理を行うとともに、ホール、会議室、展示室等が十分に活用されるよう、利用者サービスの向上に努めた。また、利用促進を図るため大型催事の誘致を進めた。

施設の安全管理の徹底により充実した利用者サービスを提供するため、財団職員及び施設管理・レストラン等のスタッフによる全体会議を毎月実施し、管理運営上の課題や利用者の要望などを共有し連携しながら改善に取り組んだ。

総来場者数 283,459 人

施設の利用状況

施設等の名称	利用可能日数	利用日数	利用率
ホール	657日	456日	69.4%
展示室	1,018日	425日	41.7%
会議室	6,197日	4,200日	67.8%
計	7,872日	5,081日	64.5%

(3) 芸術文化に係る事業を推進するための付帯事業

芸術文化に係る事業を推進するため、次の付帯事業を実施した。

ア 各種の活動及び発表の場の提供

多目的ホールである埼玉会館において、芸術文化活動以外の講演会、講習会及びその他の催し物等について施設の貸与を行った。

イ 駐車場及びレストランの運営

施設利用者の便宜を図るため、有料駐車場を管理運営した。

レストラン運営については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、休業や営業時間の短縮、各種対策の実施などを余儀なくされたが、施設利用者の要望にも配慮し、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底し、可能な範囲での営業を実施した。

ウ その他公益目的事業の推進に資する事業

施設内及び敷地内での写真や動画の撮影等について、一般の施設利用との調整を図りながら、積極的に受け入れた。

エ 埼玉会館のブランディング事業

建造物として高い評価を受けている「埼玉会館」の歴史と建築を発信するため、ブランディング事業として建築セミナー「埼玉の自然、暮らし、文化に寄り添う 前川建築」を10月に大ホールで開催したほか、ボランティア・ガイドによる建築見学ツアーを実施し、前川建築や埼玉会館への関心を高めるための取組を実施した。また、埼玉会館の趣を好んだファッション誌などの撮影利用も積極的に受け入れた。

オ 賑わい創出と活性化のための共催・連携事業

彩の国さいたま芸術劇場では、地元のさいたま市中央区美術家協会の美術展会場として、2月にギャラリー及び情報プラザを貸与するなど開催に協力した。これまで劇場に足を運ぶ機会がなかった客層の来場があり、美術作品への触れ合いを通じて劇場空間に親しんでいただくことで、地域の人々に劇場に対する

理解と親しみを深めてもらう機会となった。

埼玉会館では、地域社会との連携により賑わい創出と活性化を図るため、商店会と合同で「県庁通りイルミネーション」の設置、財団自主事業の観客に対し地元商店の協力を得て各種サービスの提供を行った。

また、美術と街巡り・浦和実行委員会と連携して「埼玉会館エスプラナード展 2022～時が息づく場とアート～」を開催し、エスプラナード（屋外）への美術作品展示を展開し、施設の公共空間を活かした賑わい創出を図ったほか、障がい者アーティストと連携した企画展を開催するなど、埼玉会館を情報発信の拠点とするための取組をおこなった。

2 理事会・評議員会の開催

当財団の事業計画、予算、決算の承認、事業の状況報告等を行うため、理事会を5回（4月、5月、6月、3月〔2回〕）、評議員会を3回（6月、3月〔2回〕）開催した。

3 役職員に関する事項

(1) 役員数（令和4年3月31日現在）

	常 勤	非常勤	計	備 考
理 事 長	—	1 人	1 人	
専務理事	1 人	—	1 人	県派遣 1 人
理 事	2 人	4 人	6 人	県派遣 1 人
監 事	—	2 人	2 人	
計	3 人	7 人	10 人	県派遣 2 人

(2) 職員数（令和4年3月31日現在）

	常 勤	非常勤	計	備 考
部 長	1 人	—	1 人	
参 事	2 人	—	2 人	
課長・副課長・ 副参事・副館長	10 人	—	10 人	県派遣 2 人
主 査	13 人	—	13 人	県派遣 3 人
主 任	22 人	—	22 人	県派遣 1 人
技 師	1 人	—	1 人	県派遣 1 人
プロデューサー	—	1 人	1 人	
参 与	—	1 人	1 人	
その他非常勤職員	—	1 人	1 人	
計	49 人	3 人	52 人	県派遣 7 人